

第三次草加市子ども教育連携推進基本方針の概要

1 子ども教育連携推進の基本方針の背景と第二次草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画の取組

- ① 社会環境が大きく変化し、自ら考え、行動することのできる人材の育成が求められている。
- ② 学習指導要領等が改訂され、幼児教育から高等学校教育まで一貫して資質・能力をはぐくむことが示されている。
- ③ 第二次草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画に基づき、平成28年度より以下の取組を行ってきた。

子ども教育連携推進委員会	(ア) 草加市子ども教育の連携に関する児童生徒アンケート調査を実施 (イ) 「草加市幼保小中一貫教育プログラム」「草加っ子にこここわくわくプラン」「草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム」「草加市小中学校教育課程指導資料(国語)」「地域学習活動参考資料」等を作成
子ども教育連携推進研究事業	(ア) 幼保小中を一貫した教育についての実践研究を委嘱 (イ) 「幼保小中を一貫した教育」に関わる研究発表会の開催
草加市子ども教育連絡協議会	(ア) 全体協議会、保育・授業見学会、教員・保育士向け研修会の開催 (イ) 3種類の保護者向け子育てリーフレットの配付
家庭教育への支援・幼児教育の充実	(ア) 子育て講演会の開催 (イ) 「親の学習」講座の開催 (ウ) 幼児教育充実事業の実施

2 第二次草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画の成果と課題

- ① 自己肯定感・自己有用感が着実にはぐくまれてきたが、一層の育成が必要
- ② 社会性・学習意欲が向上
- ③ 15年間を通じたカリキュラムの充実が必要
- ④ 地域との一層の連携が必要

3 子ども教育の連携の必要性

- ① 0歳から15歳までの子どもの育ちを幼保小中が連携を図りながら支え、子どもたちの将来を見据えて、「生きる力」を育成していくことが必要
- ② 家庭や地域とも十分に連携を図り、理解や協力を得ながら、社会を生き抜く力の根幹を育てることが必要

基本理念 0歳から15歳までの「学び」「心」を結ぶ幼保小中を一貫した草加の教育
～自己肯定感・自己有用感をはぐくむ～

4 子ども教育連携推進の基本方針

- ① 幼保小中を一貫した草加の教育による、「生きる力」の育成
- ② 幼保小中を一貫した草加の教育による、「社会に開かれた教育課程」の実現
- ③ 園・学校・家庭・地域の連携による、一体となった取組
- ④ 特別支援教育における交流・連携の推進
- ⑤ 幼児教育への支援の充実
- ⑥ 家庭教育への支援の充実

5 草加市における「子ども教育の連携」のねらい

- ① 子どもたちが継続的に安心して学べる環境の充実
- ② 知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成
- ③ 幅広い知識と高い指導技術をもった教職員の育成

第三次草加市子ども教育連携推進行動計画の概要

1 目的及び計画期間

草加市子ども教育連携推進基本方針に基づき、草加市における子ども教育の連携推進を段階的に実施するための具体的な取組内容・取組方法について定めるものとする。計画期間は令和2年度から令和5年度までの4年間とする。

2 計画の実施主体及び関連事業

- ① 草加市子ども教育連携推進委員会
- ② 草加市子ども教育連携推進委員会専門部会
- ③ 草加市子ども教育連絡協議会
- ④ 草加市幼児教育充実事業
- ⑤ 草加市教育委員会研究委嘱

3 具体的な取り組み事項

子ども教育連携推進委員会及び専門部会の開催

推進委員会では、第三次草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画の進捗を管理します。また、幼保小中、市の関係機関が、お互いの支援内容や方法について理解を深め、緊密に連携を図り、お互いの経験や知識を共有して課題に共に取り組むことで、子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた、よりきめ細やかな支援を行えるようにします。

専門部会では、草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラムや学ぼう!ふるさと草加等の各種資料の作成や専門的・具体的な事項について、検討や協議を行います。

子ども教育連絡協議会の開催

中学校区を単位として、定期的な協議会を開催します。協議会の活動を通じ、交流・連携の機会の充実や、教育方法・教育内容についての相互理解や課題の共有を行います。

また、交流・連携の課題として、改善されてきているものの、多くの園・学校が「日程調整の難しさ」を挙げています。

こうした現状を踏まえ、各園・各校が年間計画を立てる際、交流・連携の取組についても併せて検討するなど、計画的に交流・連携を進められるよう支援します。

目指す子ども像の共有

各中学校区では、子どもの実態を踏まえて「生きる力」をはぐくみ、目指す「草加っ子」(15歳の姿)を実現するため、「目指す子ども像」を設定しています。

これまでの研究実践を踏まえて、目指す子ども像を見直すとともに、各園・各校だけではなく、家庭・地域にも周知・共有して、一体となって子どもを育てることができるよう、各中学校区を支援します。

15年間を通じたカリキュラムの編成

これまで、「草加っ子にこにこわくわくプラン」「草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム」等の各種資料を作成・配付し、各園・各校が15年間の子どもの育ちを見通してカリキュラムを編成することができるよう支援してきました。

今後は、各種資料を適宜改定して、内容を充実させ、分かりやすく使いやすい資料にするとともに、必要に応じて研修会や訪問支援を行い、幼保小中の教職員が各種資料の活用法について理解を深められるようにすることで、各園・各校が工夫・改善しながら15年間を通じたカリキュラムを編成できるように支援します。

一貫教育にふさわしい組織づくり

各中学校区は、これまでの研究実践を通して、幼保小中を一貫した教育について定期的に協議する組織づくりを行ってきました。

今後もこの組織を維持し、継続して協議を行うことで、各中学校区の幼保小中が同じ目標に向けて子どもたちを育てていくことができるよう、小中学校長、幼稚園・認定こども園長、保育園長等それぞれに働きかけ、お互いの教育等に関する理解が進むよう支援します。

自己肯定感・自己有用感をはぐくむ教育の推進

児童生徒アンケート調査の結果分析から、自己肯定感・自己有用感と関連のある事項が明らかになりました。

引き続き、このことを研修会や訪問の機会等で周知し、保育・教育において重視するよう促すとともに、自己肯定感・自己有用感をはぐくむために、既に行われている優れた教育実践を周知し、研修会や訪問、研究委嘱等の機会を通じて浸透を図ります。

ふるさと草加学習の推進

将来の草加を担う人材を育成するためには、子ども教育を通して子どもたちがふるさと草加について理解を深め、愛着や誇りをもつようになることが重要です。

そのために、生活科や総合的な学習の時間を中心に、「学ぼう！ふるさと草加」等を活用した「ふるさと草加学習」を推進します。優れた実践は市内に周知するとともに、「学ぼう！ふるさと草加」にも反映させ、広く実践できるようにしていくことで、ふるさと草加学習の充実を目指します。

特別支援教育における交流・連携の推進

特別支援教育では、これまでも様々な児童生徒の交流行事を行い、幼保小中の教職員が一人ひとりの課題を共有し、子育て支援センターや教育支援室などの関係機関とも連携を図りながら保育・教育を行ってきました。こうした交流・連携が一層充実するよう、子ども教育連絡協議会などの機会を活用して相互理解を支援します。

また、特別支援教育においても、「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる」草加っ子をはぐくんでいけるよう、研修会や訪問などの機会を通じて、指導・助言を行っていきます。

地域との連携の充実

社会に開かれた教育課程を実現し、「ふるさと草加学習」を推進するためには、地域との連携を充実させることが重要となります。

令和2年度からは、全小中学校が学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなります。この仕組みを生かして、地域と力を合わせて子どもたちを育てることができるよう、先進自治体の好事例を収集し、周知することで、各中学校区が学校運営協議会や学校応援団を工夫・改善できるよう支援します。

幼児教育への支援の充実

子どもたちの豊かな心をはぐくみ、幼児の発達に必要な体験機会を充実させる活動、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図る活動、家庭教育への支援を図る活動を行う市内の幼稚園・保育園・認定こども園への支援を行います。

また、小学校教育を見通してアプローチカリキュラムを編成したり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえて保育を振り返り、改善したりできるよう、訪問支援の拡充を図ります。

家庭教育への支援の充実

0歳から15歳までの子どもをもつ保護者及びこれから親となる方を対象として「子育て講演会」を開催し、子どもの発達段階に応じた、子どもと保護者との接し方や関わり方など、子育てに関して学ぶ機会を提供することで、保護者の不安の軽減を図ります。

また、子育てに必要な知識やスキルを学ぶことができる保護者向け「親の学習」講座と、親になることと向き合い、大人になることに希望がもてるようにする中学生向け「親の学習」講座を実施します。

さらに、小学校入学に対して不安がある子どもや保護者が、安心して入学を迎えられるよう、関係機関と連携を図りながら「家庭・学校連携シート」の活用を促し、入学前に保護者と学校がコミュニケーションを図れるよう支援します。

教員・保育士向け研修の充実

「草加市幼保小中一貫教育プログラム」「草加っ子にこにこわくわくプラン」「草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム」等、各種資料の内容を理解し、積極的に活用することでカリキュラムの工夫・改善につながるよう、教員・保育士向け研修の内容を充実させて実施します。